

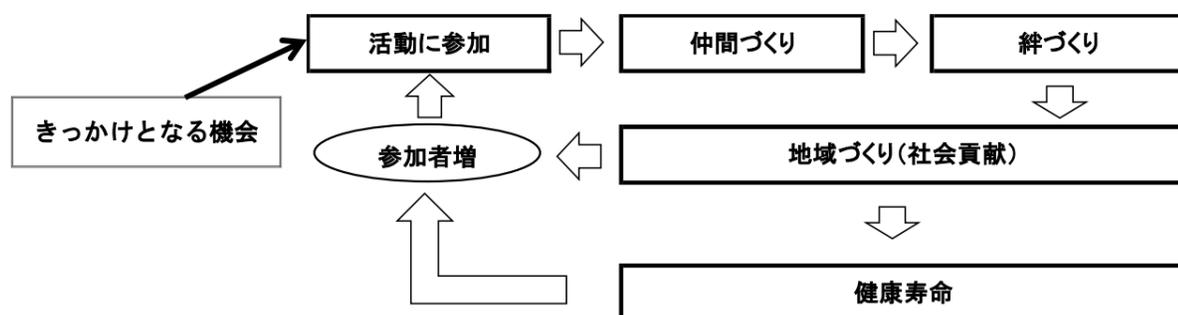
市民活動・絆づくり部会 調査審議状況

1. 部会が目指すもの

(1) 審議テーマ

○活動参加による仲間づくり・絆づくり・地域づくり

- ・多くの麻生区民が、地域活動に参加するための方法を検討する。そして、区民が地域の担い手の一員である意識を持ってもらうようにします。
- ・具体的には、下記の図のように地域活動を通じて仲間ができ、絆が生まれ、地域が活性化する。そして、そのような活動によって健康寿命が実現される（担い手づくりのサイクル）。これを麻生区でどのように具体化するかを検討します。



(2) 地域活動の担い手と対象

- ・地域活動の担い手について…多くの区民（世代に関係なく）が地域活動に参加するための方法を検討します。
- ・対象（貢献する相手）について…対象（貢献する相手）については人だけでなく、緑や教育なども含めた地域に関わるもの全てとします。

(3) 審議の方向性

- ・部会では、区民が地域活動に参加するきっかけづくりの方法として、次のような意見が出されました。
 - 市民活動団体の活動を知る、触れる機会があれば、興味・関心を持ってもらうことができ、地域活動に参加してもらえるのではないか。
 - その機会としては、イベントが有効ではないか。
- ・このようなことから、区民が地域活動に参加するきっかけづくりの方法として、区民が麻生区の市民活動団体を知ることができる「キックオフイベント」の開催を検討することになりました。

2. 区民会議フォーラム（キックオフイベント）の開催

- ・区民が地域活動に参加するきっかけづくりの方法として、「キックオフイベント」が有効かどうかを検証するために、次のようなフォーラムを開催することになりました。

①キックオフイベントのテーマ

麻生区の地域活動を知ろう・つながろう・楽しもう

- ・麻生区の豊富な地域活動を知ってもらうことで身近に感じ、さらに興味を持ってもらい、参加につなげることを目的にイベントを行う。具体的なテーマの目標は、次のとおり。

知ろう	・麻生区には特徴的な活動があること、多様な活動があることを知ってもらう。 ・自分の趣味や特技（活動に参加していない人）が、地域貢献・社会貢献につながることを知ってもらう。
つながろう	・イベントに参加した人と団体がつながる、イベントに参加した人同士がつながる。 ・自分のこれまで経験したこと（活動に参加していない人）が、地域貢献・社会貢献につながることを体感してもらう。
楽しもう	・「知ろう」、「つながろう」を通じて、楽しんでもらう。

②イベントの対象

- ・キックオフイベントの対象については、麻生区の全世代に参加してもらうことを念頭に置きつつ、麻生区在住の小学校低学年以下の子を持つ子育て世代にしました。

③日時・会場

- ・日時：平成30年2月3日（土） 13時～16時
- ・会場：麻生区役所4階会議室

④参加団体

- ・麻生区区民会議フォーラム（キックオフイベント）には、次の10団体が参加しました。

ふらっと新百合ヶ丘	ガールスカウト神奈川県第32団	あさお運動普及推進員の会
グループ「せっけんの家」	かわさきかえるプロジェクト	おやし考
あさお和風の会	麻生ファミリー囲碁クラブ	おもちゃと遊びの会
bless4&AM		

⑤当日の参加者数

- ・当日は、親子を中心に約300名もの参加がありました。

⑥ イベントプログラム

1) ステージパフォーマンス・プレゼンテーションの部

- 参加団体がステージ上でパフォーマンス、また団体の活動紹介などプレゼンテーションを行い、団体の活動を知ってもらう機会をつくりました。

2) 体験ブース・情報提供コーナーの部

- 麻生区で活動する団体のブースをつくり、そこで体験型の催し物を行い、参加者に団体の活動内容を体感してもらう機会をつくりました。



3. 区民会議フォーラム（キックオフイベント）の検証

(1) 参加者アンケート結果

■活動に興味・関心を持つことができたか	・「とても興味・関心を持った」「興味・関心を持った」を合せると、71.2%となった。
■団体の活動内容を知ることができたか	・「とてもよく知ることができた」「知ることができた」を合せると、67%となった。
■活動を身近に感じることができたか	・「とても身近に感じるようになった」「身近に感じるようになった」を合せると、61.9%となった。
■活動を始めたいと思ったか	・「始めたい」については11.3%にとどまっている。また、半数が「普通（どちらでもない）」と答えている。
■どんなきっかけがあれば参加したいと思うか	・イベントが54.4%で最も多く、次いで知人の紹介が27.8%で多くなっている。

(2) 参加団体アンケート結果

■参加者とつながることができたか	・1団体が「どちらともいえない」があった以外はすべて「できた」と答えている。 ・理由・意見をみると、「楽しさを知ってもらえた」、「活動を知ってもらえた」「周知できた」と答えている団体が多くみられる。
■団体同士のつながりはできたか	・「団体同士のつながりはできたか」については、半数の5団体ができなかったという回答。 ・できなかった理由は、「あまり接点が取れなかった」「他ブースをあまり見に行くことができなかった」などが挙がっている。

(3) 部会での検証

- アンケート結果等を踏まえて、部会で検証を行いました。主な意見は以下のとおりです。

- 参加者に「活動に興味・関心を持ってもらうこと」、「団体の活動内容を知ってもらうこと」、「活動を身近に感じてもらうこと」については、キックオフイベントのようなイベントは有効であるとわかった。
- 「活動を始めたいと思ったか」については、半数が「普通」と回答しており、「どちらでもない」と捉えられることから、この方たちに今後活動に参加をしたいと思ってもらうようなきっかけづくり（1回きりのイベントでは難しいため、継続すること）が必要となる。
- 多くの人が集まった理由が、小学校にチラシを配ったからということがわかった。また、このようなイベントに興味・関心がある人が潜在的にいることがわかったため、活動参加につながる人材発掘につながると考えられる。
- ほとんどの参加団体が、参加者とつながることができたという回答していることから、キックオフイベントのようなイベントは、団体の活動を知ってもらう機会として有効であると考えられる。
- 半数の団体が団体同士のつながりができなかつたため、交流する場等を設ける必要がある。
- 準備期間が短く、団体と十分に議論ができなかつたため、今後開催する場合は、工夫が必要になる。
- 今回、子育て世代を対象にイベントをしたが、テーマや対象を絞って開催したほうが、有効であると感じた。

4. 提言に向けた検討

- 検証結果を踏まえると、地域活動を知ってもらって身近に感じ、さらに興味を持ってもらい、参加につなげる方法として、次のことを提言します。

①活動参加へのきっかけ作りとなるイベント等の開催

- 参加者アンケートを見ると、地域活動、市民活動を知ってもらう、身近に感じてもらうためには、キックオフイベントのような団体と触れ合えるイベントは、有効だということが分かりました。
- このようなことから、参加者に地域活動を知ってもらい、さらに興味を持ち、参加につなげるためのきっかけ作りとなるイベント等を開催することを提言します。

②イベント等の実施方法について

- イベント等の開催にあたっては、今回の参加団体を念頭に、より多くの地域の方が参加できるような区民主体の体制、又は区民・関係機関・行政で協働した体制で実施していく必要があります。
- ただし、1度きりのイベントでは、活動したいという意思になるまでは難しいようです。このようなことから、キックオフイベントのようなイベントを継続して開催することや既存イベントの活用、相談窓口、活動の紹介冊子、講座等、参加につながる資源の活用が必要であると考えます。

③市民活動団体同士の連携強化

- イベントの開催等をきっかけとして、市民活動団体の横のつながりが生まれ、区内の地域活動を支える力が強化されると考えます。各団体の個々の活動や情報発信は限界があるため、こうした横のつながりができることで、それぞれの活動を発展させ、更なるコミュニティの活性化につながることを期待できます。ただし、団体同士がつながるためには団体が単にイベント等に参加するだけでなく、交流する機会等を設けていく必要があると考えます。

